

moshi moshi

2002 Vol.19

お医者さんと上手にコミュニケーションしましょ

特集：「おねしょ」



「おねしょの悩み」は深刻になりがちです。人にはいいにくく、家族だけで悩みをひそかに抱えてしまうからなのかもしれません。また、「そのうち治る」のがおねしょの常識でもありますので、ひたすら待つものの、見通しがたたないだけにあせりにつながってもしがちです。さて、おねしょはどう考えたらいいのでしょうか。

ねんざと脱臼

いずれも関節を動く範囲以上に動かしたときに起るトラブル。関節にむりがかかったために、じん帯や関節を包んでいる関節包に傷がついてしまうのがねんざで、関節がはずれて元に戻らなくなったものが脱臼。ねんざは足関節に起ることが多く、脱臼は肩が代表的。

ねんざをしたら、すぐに患部を氷で冷やし、包帯で圧迫する。ねんざは診察を受けることもないと考えられがちだが、放置すると再発しやすいので、きちんと診察を受けたほうがよい。脱臼は本来の位置に戻す整復が必要だから、すぐに受診の必要がある。



フロッピーインファント

フロッピーインファントというのは体がクニャクニャしている子ということで、病名ではない。筋肉が柔らかく、なんとなくクニャクニャしているだけで、大きくなるにつれて治ってしまう場合も少なくない。

しかし、筋肉が柔らかいことから、首のすわりやおすわりが遅くなることもある。

また、先天的な筋肉の病気がある子、全体的に発達の遅れがある子などでも体が柔らかくなることがあるので、発達の様子を継続的に観察することが大切で、時には検査も必要になる。

この小冊子の内容は「医師による発育・発達・病気の電話相談」からの内容を抜粋したものです。

03-3219-0797 受付日時 毎週水曜日 14時～17時
(週2回) 毎週金曜日 10時～13時

低身長はメールでも受けつけています

アドレス moshimoshi@pep.ne.jp

ホームページ <http://club.pep.ne.jp/~moshimoshi/>

監修

横田俊一郎先生（横田小児科医院院長）

構成／泉美智子 イラスト・レイアウト／いとうやすこ

もうすぐ5才なのに毎晩おねしょ

おねしょは叱れば治る？
何もせずにただ待っていてもいい？
それとも専門病院で検査・治療が必要？

—4才10か月の男児のママの電話相談より—



先生 ● 毎晩あるのですか。
はい。しかも一晩に2回はします。
先生 ● 夜の水分制限はできていますか。
水分制限が必要なのですか。
先生 ● 飲んだものは2時間後には7、8割がおしっことして出るので、少なくとも寝る2時間前からはできれば飲ませないのが自宅でするおねしょ対策なのですが。
—うちの子は夜寝る前に牛乳を飲むのですが。
先生 ● 牛乳は利尿作用があるので、寝る前に飲ませればおしっこはよけい出やすいのですよ。

—鼻がおねしょはきつく叱らなければというて、毎朝子どものお尻を叩いています。私も毎晩寝る前にはおしっこが出たくなったら目を覚まさないため」と言い聞かせているのですが、これを続けることで治りますか。
先生 ● いやあ、それは感心しませんね。叱ること、叩くこと、注意しすぎるなどは何の意味もないどころか、逆に悪化させる可能性もありますよ。叱られると緊張して情緒不安定になり、膀胱の機能に關係のある自律神経に悪い影響が出るからです。

—ということば、ほつておくしかないということ？
先生 ● 早寝、早起きなど生活リズムを整えること、おやつは食べさせすぎない、夜の食事は6時までには終らせ、夕食時に飲んでよい水分量はコップ1杯だけにしておくと、飲ませないなどを実行してみることでないですか。
—そんなこととてもできません。うちの子はのどがかわくたかなのか、食後すくく水分をほしがるので…。
先生 ● 夕食のおかずが塩からすぎることはありませんか。食後のどがかわくのは、塩分をとりすぎているのかもしれません。夕食に汁物はつけないほうがいいでしょう。
—5才を過ぎてもおねしょが治らなかつたら、病院で治療を受けたほうがいいと人から聞いたのですが。
先生 ● 程度にもよりますが、5才半を過ぎてても毎晩する、しかも一晩に2回もするというような場合は、夜中に尿を濃くしてもらえないようにする働きのある抗利尿ホルモン（のどが出が悪いとか、自律神経の關係で膀胱が大きくなれないなど）ということもあるので、一応検査してもらったほうがいいと考えられています。

—原因がわかれば治療はできるのですか。
先生 ● 現在では夜尿症の薬もいろいろあるので、全国的には治療で早期に治っている例が多いといわれます。

—くわしくは相川務著「西東社刊 おねしょ・夜尿症を治す」を参考にしてください。

発達

低身長

つかまり立ちをしない

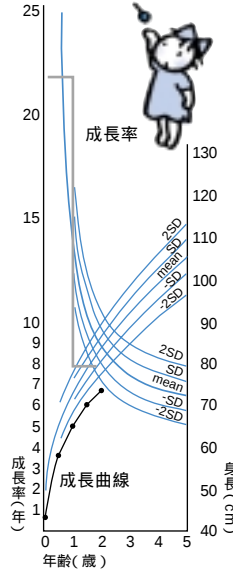


11か月のに
まだつかまり立ちができない

Q むりにつかまらせて立たせるとかろうじて立ちますが、左足はかかとだけでやっと立っている感じ。9か月健診の立たせる検査でこの子が脚を曲げてしまったのを診た医師は「これはこの子の個性でしょう」と軽くいわれましたが、何か異常があるのではないのでしょうか。歩けるようになるでしょうか。イナイナイバアはできますし、よく食べて元気ではあるのですが。

A いちばん考えられるのはシャッフリングベビーといって立たせようとしても足を地につけず、曲げてしまうタイプの子ではないかということです。健診の医師がいわれたとおり「この子の個性」と考えればよいと思いますよ。異常などはまずありません。このタイプの子は、歩くのが普通より遅く、1才半を過ぎることもあります。歩き出せば普通の子と変わりません。いまは立つのが楽しくなるような遊びを工夫してたくさん遊んであげてください。ただし、1才を過ぎてても自分から立とうとしないようだったら、一度診てもらっておいたほうがいいでしょう。

2才で73.3cm。満期産43cm生まれの女の子



Q 予定日通りに生まれたのに、43cm、2,130gと小柄でした。その後の発育もいまいで、1才で65.5cm、6,750g。2才になっても73.3cmで、「-3SDだからかなり小さいね」といわれました。それでも、3才まで様子をみようということでしたが、あと1年待っていてよいものでしょうか。不安でなりません。

A 典型的な子宮内発育不全のようですね。このタイプの子は生まれてからも発育があまりよくなく、低身長の傾向が出がちです。しかし、成長率自体も正常をかなり下回っており、低身長の程度も重症になっています。成長ホルモン分泌不全の可能性もあるので、一度専門医にスクリーニング検査だけでもしてもらったほうがいいでしょう。

子宮内発育不全だけだった場合はいまのところ低身長治療の対象にはなっていませんが、将来対象になる可能性はあります。また思春期が早くきてしまうとかなりの低身長になるので、その点も含めて定期的に、専門医のチェックを受けていくことをおすすめします。